

テーマ「言語力を高めるっておきの授業技法」

1 日本語が作り出す世界

- ・全会員による「大漁（金子みすゞ）」の朗読からスタート

大漁 金子みすゞ
朝焼け小焼けだ大漁だ
オオバいわしの大漁だ

浜は祭りのようだけど
海の中では何万の
いわしの吊いするだろう

- ・母音の「あ」を非常に大切にする。感情移入しなくても自然に気持ちが入る。
- ・岩下先生の範読…「だ」をあーとのびないように読む。
- ・「いわしの吊いするだろう」お腹に力を入れる。

- ・「からっぽ」の朗読

からっぽ 坂村真民
頭を
からっぽにする
胃を
からっぽにする
心を
からっぽにする
そうするとはいつてくる
すべてのものが
新鮮で
生き生きしている

- ・実際に一行一行読むときに本当に頭をからっぽにして読む。

- ・「どうしていつも」の朗読

どうしていつも まどみちお
太陽
月
星

そして
雨
風
虹
やまびこ

ああ 一ばん ふるいものばかりが
どうして いつも こんなに
一ばん あたらしいのだろう

- ・やまびこはちょっと丁寧に 語尾が大切。
- ・一番新しいの「あ」が一番上から持つてくるように。

- ・「ちょっと とって」の朗読
リズムよく

ちょっととって 畑中圭一

シャッポ ちょっと とって
バット ふって ヒット
カップ とって グッド

ポット ちょっと とって
コップ そっと もって
ホット シロップ ぐっと

ラッパ ちょっと とって
そっと もって いて
ワット いて やった

- ・「ばんがれまーち」の朗読
リズムが大切

ばんがれまーち 阪田寛夫

ばんがれ
ばんがれ
ばんがれ まーち
さかだち
いっかい
がんばれ まーち

かたつむりは
よるがこわいとなくだろうか
おおかみは
あめがいやだのにげだすか

あめふる
かぜふく
それからてんき
あさくる
よるくる
そのつぎ あさだ
ばんがれ
がんばれ

その他、以下の詩を紹介

- ・「けやき」
- ・「月夜の電信柱」
- ・「俳句十五選」
- ・「胡陰君を尋ぬ」
- ・「常に白帝城を発す」
- ・「論語」

追い読みをさせるときに、教師は一回読んで、次に子どもが読む。そのとき教師も一緒に読む。(教師の声に子供は支えられる)

- ・「なぞなぞあそびうたより」

この本は、子どもたちの大好きな、なぞなぞあそびの本。「①はぶらし」「②かぎ」「③ドライヤー」など、答えは子どもの身近なものばかり。

(例)

いぬでも ないのに
つながれて
かいじょうみたいに
あつい いきふく
ふう ふーう

- ・ 題を隠しておき、子どもたちに問う。
- ・ 題とその題にしたわけを聞く。
- ・ では、左の詩の題は何でしょう？

◎たっぷり音読をさせる→言語力の育成につながる (言葉のもつ情・響き)

- ・ DVD視聴…中学2年生による合唱「すばらしい友達」「やまなし」
「すばらしい明日のために」
- ・ 「道」岩下先生による範唱→会員による練習→音楽をつけての合唱

2 模擬授業 (T : 岩下、C : 参加者)

「私たちの星」 谷川俊太郎

- 1 **はだし**で踏みしめることの出来る星
土の星
- 2 **夜**も**いい匂い**でいっぱい星
(花)の星
- 3 **ひとしずく**の**つゆ**がやがて海へと (育つ) 星
水の星
- 4 道ばたに草**イチゴ**が (隠れている) 星
おいしい星
- 5 遠くから**歌声**が聞こえてくる星
(風)の星
- 6 **さまざまな言葉**が**同じ喜びと悲しみ**を語る星
(愛)の星
- 7 すべてのいのちがいつかともに憩う星
ふるさとの星
- 8 数限りない星の中のただ一つの星
私たちの星

小さな問いをいくつか用意し、授業でつなげていく。

詩を1行ずつ板書して()にあてはまる言葉を予想していく。

○2連の部分

T : ()には何が入るでしょう？ 漢字一文字で。

C : 風。空気だと思ったが、漢字一文字という条件なので。

T : なるほど。(実はこの答えは5連で出てくる。ふちに板書する) 他には？

C : 花

○3連の部分

T : 明らかに主語になるものはどれですか？

T : 「つゆが」が主語ですね

T : ここの()は主語に対して？ そうですね述語です。

T : 海ですと、普通なら？ 流れるですよ。

ここでは、擬人法を使っているんです。

T : 擬人法が使われている()に入る言葉は何でしょう。

隣同士で話し合ってみましょう。どうぞ。

T : 育つが入ります。

- ・子どもに「自然」と「人事」ということばを覚えておくと役に立つ。
- ・**赤は人事**。**青は自然**。
- ・自然はかわらないけど、人事は変わるもの。
- ・この詩は、自然と人事の組み合わせでできている詩。

○7連の部分

T：「憩う」は述語。「憩う」の意味は？

.....

T：「休まる」という意味。主語は？

C：「命」

T：命が休まるというのは、どういうこと？

C：命がなくなる。

T：命を修飾している言葉は、「すべての」
すべての命が、いつかともに休まる星
「すべての」だから、人間だけじゃない。

T：さて、7連のあと、続きがあるでしょうか？
続きがあると思う人、ないと思う人、挙手させる。

C：あると思う。ここでなくなったら悲しい。

C：最終的に題名に戻る 繰り返して。

T：拍手を送りたくくなりますね。まだ、(黒板が) あけてありますから (笑)

T：私たちの星は、人事でしょうか？自然でしょうか？

C：両方。

- ・詩の最後に、谷川さんは「主題は一言で言えるようにしなくていい。」という。
- ・詩は、まとめるようなことはできない。
- ・詩の全体の中に、詩の主題が込められている。

- ・読解とは、イメージ喚起・形成によって発見的に認識する力
 - ・読解的アプローチ……批評的アプローチにつながる
 - ・分析的アプローチ……読解できなければやらない方がいい
 - ・批評的アプローチ……今回は、この方法を使う。

この詩の8つの連のうち、一番すばらしいと思う連（A連）と2番目にすばらしいと思う連（B連）を選びなさい。そして、次の形式で文章を書きなさい。

確かにB連もすばらしい。……（理由）……からだ。しかし、私はA連の方がすばらしいと考える。なぜなら、……（理由）……からである。

- ・参加者から3人の発表があった。3人とも素晴らしい評論。会場からは感嘆の声。その一つを紹介する。

確かに3連もすばらしい。命の源である水が、海へとつながっていくように自然は次から次へとつながっていく。

しかし、私は7連の方がすばらしいと考える。なぜなら、すべての命がふるさとに帰り、作者は「憩う（いこう）」という文字で平和であるということを感じているからである。

最後に資料を使って、まとめをされた。

◎ 4つの読解

- ①音読
- ②一人読み（気づき、不思議を文章で書かせる）
- ③対話、討論による読解 他者との交流
- ④評論文（たしかに～もいい。しかし、・・・） 筆記が思考を生み出す。

◎ 読解とは・・・

- ①イメージの喚起・形成による言葉・文、作品の新たな認識
- ②表現や作品を分析、批評し、筆記表現とする力と、筆記による新たな思考と認識

◎ 詩の読解法の説明

- ①小出し方式
- ②虫食い方式
- ③全文紹介方式

・筆記するということが、新たに違う角度で読解（思考）する。

・公開日は、1月28日（土）です。「大造じいさんとガン」をします。ぜひお越し下さい。